

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500020		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	そよかぜ		
所在地	中津川市高山1951番地43		
自己評価作成日	令和1年11月5日	評価結果市町村受理日	令和2年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和1年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

そよかぜの設立理念「いつまでもひととしての尊厳が保持できるために」を基に選択の自由、自己決定があり人権とプライバシーが確保され、思いやりたすけあう人間関係が作られています。入所者の会議「考えよまい会」では行事、希望、生活全体について話し合い計画実行されています。要望に応え、その人らしい自由で豊かな生活と運営への参加をめざしています。職員は議論を大切に連携を高め課題の解決に繋げています。健康管理やターミナルは医療連携の元、ご本人とご家族の意向に添って行い安心できると評価して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「年をとっても、障がいがあってもなくても、利用者も職員もみんな平等」という思いを持ち、大家族が暮らす家として運営している。困った時は、お互い様の気持ちを忘れず、職員が利用者を支援するだけでなく、利用者が職員をフォローして、共に役割を担いながら暮らしている。地域住民や家族を巻き込みながら、地域福祉の向上を目指し、新しい福祉の在り方を追求している。子育て中や親の介護をしている人など、志を持った人を職員として迎え入れ、皆で支え合いながら働ける職場環境を作っている。職員同士の関係は良好で定着率の良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間でしっかりと事業所の理念を共有し、尊厳とプライバシーを守り住み慣れた地域でその方がその方らしく、生活出来る様支援している。	職員自身も認定NPO法人の会員として、運営に関わっている。理念を常に意識しながら、利用者が住み慣れた地域の中で、安心して暮らせるよう一人ひとりの尊厳を守り、全職員で理念を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動に積極的に参加している。日常的に野菜を頂いたり、畑の管理をしてくださる方もある。法人の「ひなたぼっこ通信」を各戸に配布している。防災訓練やレク、行事などの協力者が増えている。	そよかぜ通信を地域全戸に配布し、法人としての活動や取り組みを報告している。地域住民やボランティアの訪問を通して、新たな発見を確認することもあり、利用者の思いやケアの気づきを、より良い支援に繋げている。	地域の社会資源を有効活用し、地域への発信を今まで以上に強化し、住民との繋がりを深められる活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスの実践が地域に認識され、独居の方が共用型デイを利用し地域と一緒に見守りした。その後入所され住みなれた地域で安心して暮らし続けるける事ができている。地域の方からの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の推進会議は年間計画を立て、毎回現状報告や取り組みを報告し、運営に関わる意見交換も積極的に行なわれ行事等にも参加されている。会議での意見は運営委員会に反映され、サービスの向上に活かされている。	他の法人グループホームと合同で開催することもあり、互いの事業所見学も兼ねて、意見交換をしている。地域の代表者やボランティアの出席も得ており、意見を参考にしながら、事業所が抱える課題解決に向けて検討し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から事業所の運営にアドバイスを頂き、GH部会では地域の実情を共有し問題点を行政に相談している。介護相談員制度にも積極的に協力しサービスの向上に活かしている。行政担当者に運営推進会議への参加を呼びかけ事業所の現状を伝えている。	行政に事業所の状況を報告し、困難事例があれば気軽に相談できる関係性を築いている。グループホーム部会に市の担当者が出席することがあり、グループホーム全体の課題について意見交換している。	グループホーム部会での繋がりを活用しながら、地域密着型サービスが抱える共通の課題と解決に向けて話し合っている。行政の協力をさらに得られるよう今後の取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し必要に応じてこまめに委員会を開催した。スタッフ会議などで身体拘束に繋がる不適切なケアについて学習を行い身体拘束をしないケアの徹底に努めている。防犯の為に夜間は通用口の施錠をしている。安全対策として同意を得てコールマット等を使用している。	身体拘束防止委員会を必要に応じて開催している。ヒヤリハットは、気づきの部分も含め、その都度、記録に残して職員間で共有し、拘束に繋がることのないよう取り組んでいる。事故防止の為に、利用者居間でコールマットを使用することもあるが、事前に使用しない方法を検討した上で、家族の同意を得て止むを得ない場合のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティングやスタッフ会議において常に状況を把握し言葉の虐待も含めて見過ごさないように努めている。身体拘束・虐待防止の研修にも参加しスタッフ会議でミニ学習として共有している。		

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営委員会では法人の事業であるところの総合支援事業について学んでいる。又、研修会に参加し成年後見制度の理解を深め、個々に必要のある場合は関係者と連携を持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は利用者や家族に十分説明し、理解、納得を得ている。消費税の改定時は文書にて理解を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「考えよまい会」の中で自由に意見や要望が出せる様に努めている。家族とは家族会や訪問時に意見や要望を聞いている。意見箱の設置、介護相談員制度を活用している。第三者委員による苦情窓口を設けている。	契約時に、本人・家族に事業所の理念を説明し、運営方針への同意を得て、信頼関係を築いている。「考えよまい会」でも、利用者が何をしたいか、困りごとはないかを聞き取り、そこで出された意見を反映させながら、行事等を企画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は全員運営委員であり、運営委員会や専門委員会において運営全般にわたって意見、提案を積極的に出し処遇・業務改善等に反映させている。働きやすい環境作り継続して取り組んでいる。	全職員が運営委員であり、運営状況を職員にも公表し、より良い運営をするための話し合いをしている。出された意見や提案を理事会に挙げて検討し、改善に努めている。会議では、役職に関わらず、気軽に意見を出し合える環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一賃金、同一労働を基本とし、処遇改善委員会に職員の意見が反映され福利向上につながるなど働きやすい職場環境づくりをすすめ、就業規則の見直しを検討している。各自の向上心が持てるよう各種研修も進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議での毎回のミニ学習、研修委員会で計画を立て実施する職員 内部研修、並びに希望に応じた外部研修を受ける機会を確保している。現場で働きながら技術や知識を身につけていけるよう支援している。介護福祉士資格取得者に祝い金が支給され意欲の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、ケアマネ部会での交流、研修会に参加し質の向上に役立っている。また、中津川医療・福祉ネットワークの活動を通じ介護の質と地域福祉の向上を目標に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを重視し、本人に寄り添い、話をよく聞き要望に沿った支援に心がけ、安心して暮らせる様入居者、職員との信頼関係作りに努めている。共用型デイからの入居の場合には、すでに馴染みの関係から信頼関係も築けており安心して暮らし始める事が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にし家族の不安や要望に応えながら自由な訪問により職員との信頼関係を築いている。家族会での交流も、お互いに安心感が持て協力しあう関係作りになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、通院のたすけあい事業、疾病への配慮など対応に努めている。また、共用型デイサービスでの支援を行なう中で夕食の提供等の対応をしてきた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の主体的生活を運営の方針とし、介護をする・されるの立場に立たず、対等な人間関係を堅持している。「考えよまい会」が一人ひとりの思いを出し合い共同生活者としてより楽しい暮らし方を相談する会として充実しつつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会、運動会、敬老会などに参加してもらい本人と家族の絆を深めると同時に家族と情報を共有し支えあう信頼関係に努めている。家族介護の困難さを理解し、自由な訪問、外出、外泊などゆっくり本人とすごせる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、地域行事、兄弟会、喫茶店などに出掛ける事により馴染みの友人、知人や親戚に会う機会を大切にしている。ご家族の面会、お泊り、ご本人の外泊なども自由にして頂いている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所等の関係が途切れないよう支援している。面会時間は設けておらず、毎日来訪する家族や、利用者の居室で泊まる家族もある。利用者と一緒に食べられるよう、訪問者にも食事を提供することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの進行や役割の中で、利用者同士居室を訪問しあうての交流や和やかな話し合い、車椅子を押すなど支え合いが自主的に出来ている。外出などもお互いに誘い合う姿がみられ職員は一步下がった所で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族は行事、ボランティア、望年会へ参加など交流がある。法人への支援者でもあり通信の配布を行ない相談や支援に努めている。また、いつでも気楽に立ち寄れる環境を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な方が増えている中、職員は個々の思いや要望を日々の会話や行動、表情などから心の声をくみとっている。ミーティングやスタッフ会議、担当者会議などで共有し実現に努めている。ご家族にもお話を伺っている。	職員は、「あなたの願い叶えマップ」の作成に取り組んでおり、利用者との日々の関わりの中から把握した意向を書き出し、実現するための支援を検討している。意思表示が難しい利用者の心の声や本音を引き出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、既往症など利用者の歩んできた暮らしぶりを本人、家族、友人、ケアマネ等から聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のマニュアルはなく、毎日朝夕のミーティングにおいて生活が連続していることを認識し一人ひとりの心身状態を把握すると同時に、思いやできる事をくみとり検討し利用者の表情、希望や身体状況、天候にそった過ごし方に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを繰り返し複数の担当者、家族、本人で話し合いスタッフ会議で再検討し共有している。認知症の進行・病気や怪我など日々変化する状態や意向に合わせ、計画の見直しを医療関係者、職員で行いきめ細やかな実践に繋げている。	利用者の意向やADL能力を把握し、家族の意向も確認しながら介護計画を作成している。モニタリングは複数の職員が関わり、計画の進捗状況や新たな課題の把握に努めている。介護記録と介護計画が連動したものとなるよう工夫し、職員間で内容を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、実施記録が活かした資料として介護計画や日々の介護の実践に反映されている。朝夕のミーティングの充実により課題を把握、共有化され深められている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅、外泊、受診等柔軟に対応している。自主事業「暮らしたすけあい事業」により、きめ細かい活動が展開されつつある。地域のニーズに応えた共用型デイサービスは定着し本人や家族の希望に柔軟に応え在宅生活の継続に繋がった。		

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店、買物、理髪、畑仕事、話し相手、清掃等定期的ボラの参加により安全で豊かな暮らしが楽しめている。、地域にある施設の催し、産業祭、夏祭り、歌舞伎など希望に添って参加できるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人家族の希望に添ってかかりつけ医や専門医の受診を支援をしている。その際嘱託医と連携している。嘱託医による月1回の定期往診及び状態変化への対応も速やかに行なわれている。訪問歯科による治療や指導で口腔ケアの充実が図れている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を受け入れ、受診は家族の協力を得ている。訪問歯科による入れ歯の調整や口腔ケアも行っている。協力医による定期的な往診や訪問看護との連携により、緊急時にも適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり状態変化を報告し、個々の健康・投薬管理、緊急時の対応にあたっている。疾病や緊急時には医療機関との連携を密に行ない適切な医療が受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は本人及び家族に対し早期退院に向け励ましている。施設医や看護師、ケアマネを通じて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期について家族、本人の意向を聞いている。重度化してきた場合には家族、嘱託医、かかりつけ医、訪問看護、訪問歯科と共に話し合い、医療連携の元、方針を決め看取りを含めたチームケアを実践している。	重度化した場合、協力医と利用者のかかりつけ医が関係者と共にチームとなって支援し、可能な限り事業所で最期を迎えられるよう支援している。他の利用者も、一緒に最期を見送るなど、そよかぜという大家族として「死」と向き合いながら、心のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化を見逃さないよう「いつもと違う」への気づきに努めている。救命救急訓練を定期的に行ないAEDの使用方を訓練している。緊急時、事故発生時のマニュアルを作り速やかに対応できるよう整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜の避難訓練を実施し避難マニュアルの見直しをしている。消防署立ち合いの防災訓練も実施。地域住民に災害時の救援要請を依頼し協力を呼びかけた。防災備品の点検、家具の転倒防止を行なっている。地域の自主防災会にも参加。	火災を想定した訓練では、実際に煙を使って、視界の悪さ、煙の怖さを体験している。利用者も参加し、職員と共に災害時において、落ち着いて安全に対応できるよう訓練を行っている。地域に事業所の現状を伝え、災害時の協力を得られるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重しプライバシーや個人情報に配慮した声かけや行動を心がけ個々の思いを受け止めながら安心してすごせる対応をしている。入居者同士の関係にも配慮している。スタッフ会議などでとりあげ意識してとっている。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守りながら、利用者同士の関わりにも目を配り、個人的な情報やプライバシーを損ねることがないように努めている。職員同士の会話であっても、個々の名前を出さないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の理念に自己決定を掲げており、利用者の主体的生活の展望に基づき「考えよまい会」が毎月開かれ、日常的にも一人一人の思いや意見、希望が出しやすくなるようゆっくりとした話し合いを大切に、決定、実行ができるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間をはじめ、日中の過ごし方も、一人ひとりのペースで過ごされ、やりたい事が自由にやれるよう支援している。スタッフ会議では常に職員側の都合を優先していないか話し合いを重ねている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整容、衣類を自分で選んでいただけるよう助言しながら、気持ちよく生活して頂く事を心掛けている。定期的に見えるボランティアの床屋さんには希望を伝えたり、家族と一緒に美容院や買物にでかけおしゃれを楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も手伝って食事作りをしている。伝統食作りでは経験を活かし利用者が中心となり力を発揮している。ご本人が食べたいものを外食したり利用者の好みや嚥下状態に応じて柔軟にきめ細かく対応している。食べる楽しみを大切にしている。	食事作りは、職員が差し入れの野菜等を活用しながらすべて手作りで提供し、利用者も積極的に調理やおやつ作りに関わっている。朝食はご飯とパンを選択することができる。利用者職員と一緒に食卓を囲み、同じものを食べ、家族団らんを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事水分摂取量をチェックし、体調管理につなげている。摂取量の少ない方は材料、形態、容器、時間を工夫し、疾病についての学習も行い、また個々の習慣や好みを理解し支援している。嚥下状態の悪い方にはアイスマッサージや嚥下医に相談し栄養補給などの対応をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを個々に声かけし援助している。必要に応じ舌苔除去も行っている。週2回入れ歯洗浄剤を使用し、義歯の清潔保持をしている。必要に応じ、歯科受診を勧めている。			

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し排泄の訴えない人もシグナルを見逃さず、さりげなくお誘いしトイレでの排泄の習慣に努めている。状態に合わせてパット類の見直しやご本人の希望に添ったものを使用し快適に過ごして頂けるようにしている。	トイレでの排泄が継続できるよう、利用者の排泄パターンと様子を見ながら、声かけと誘導を行っている。二人介助が必要な場合でも、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態に合った排泄用品を選択し、変更時には家族に報告している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり食事の工夫や水分摂取量、排便パターンをチェック表で把握し、医師の診断にて内服による管理もおこなっている。生活リハビリとしての運動を取り入れるなど自然排便を促し便秘予防の対策としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、習慣、ペースに合わせて柔軟に対応している。ゆったり関わり楽しく会話しながら入浴している。身体状況に合わせてリフトを使用し、安心安全な入浴を心掛けている。ゆず湯、菖蒲湯など季節風呂、温泉にも出かけ楽しんでもらっている。	浴室の入り口に暖簾をかけ、窓からは木々や空を眺めながら、木の浴槽でゆっくりと温泉気分が味わうことが出来る。また、職員と会話しながら季節の湯を楽しんだり、身体機能が低下しても、リフトを使用して湯船に浸かれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた自由な生活と睡眠状況や健康状態を把握し、休息や起床、就寝できるよう配慮している。不眠時は日中の活性化を図ると同時に安心出来る声掛けや飲み物、医師の処方による内服で対応し安眠の支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量を理解し健康状態を把握している。症状の変化には医師の指示を個人記録に記載し申し送り周知をはかる。配薬、服薬の確認、服薬表の記入を複数の職員で行い誤薬の防止を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活を楽しく生き生きと過ごす為にレクや外出など希望に添った過ごし方を大切に、日々の生活の中で掃除・洗濯物干し・たみ・食器洗いや会議での書記等、出来る力や役割を発揮できるよう支援し活性化されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々本人の希望や気持ちを聞き取り散歩やドライブ、自宅訪問、買物、外食喫茶などすぐに対応し喜ばれた。ボランティアやご家族の力を借りて個別や小グループで出かけ笑顔あふれる時間を過ごされている。	日常の散歩以外にも、利用者の望む個別外出が実現できるよう、職員で協力し合い支援に努めている。外出時には、利用者の写真を様々な場面で撮り、思い出作りと共に、利用者との会話のきっかけ作りや家族との絆を深められるよう努めている。	

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方は家族と相談のうえ現金を所持されている。買物等外出時には財布を持参し自由に使い楽しまれるよう支援している。出納帳により預かり金を管理し家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたいときはいつでも自由に使用できるよう支援している。届いた手紙を本人の希望により個別に読んだり代筆を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアやテラスからは自然を一望できる。花や植物を飾り、季節の作品や写真を貼り楽しい会話が弾んでいる。談話室は幅広い活動が行こなわれる寛ぎや交流の場になっている。入居者の関係に配慮したテーブル配置を行っている。皆さんが日々穏やかに過ごす環境作りを行っている。	共用空間の清掃は、利用者も役割を持って関わり、職員と一緒にしている。同法人が運営する通所介護の利用者が、フロアで一緒に過ごす時もあり、楽しい会話が弾んでいる。また、廊下に貼られた行事の写真は、訪問者とのコミュニケーションツールのひとつにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のスペースを増やしテラス、たたみコーナー、こたつなどで、自由に過ごす事ができる。また、気のあったもの同士のおしゃべり、テレビ観賞、テラスでのひなたぼっこなど思い思いの居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に相談し馴染みの家具や置物などを持ってきていただき、趣味の作品なども飾り自由に居心地良く暮らしている。使いやすいベットや家具の配置や模様替えを職員と一緒にしている。	居室には、馴染みの家具を持ち込み、小物や趣味を活かした作品などを飾り、落ち着いた居室となるよう工夫している。化粧をして身だしなみを整える人や、仏壇や遺影を置き、日々手を合わせる人もある。居室は広く、希望があれば家族が泊まる事が可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に階段昇降機を設置し必要箇所に手すりを設け状態に合わせて安全に移動できるようになっている。各居室に洗面コーナーを設け、トイレは4ヶ所あり各居室から近く案内板を掲示して混乱を防ぎ夜間も利用しやすくなっている。		